

私を励ました

聖書の言葉

一人ひとりを支え導いてくれた御言葉を綴っていただきました。

私たちは、
四方から苦難を受けても
行き詰まらず、
途方に暮れても失望せず

コリントの信徒への手紙二 4章8節

幼稚園保護者 朝倉 香苗

私を励ます聖書のことば

2人の娘を育てる中、娘達と日々のささやかな喜びを紡ぐ一方、理想通りにはいかない育児への不安やもどかしさ、母としての至らなさに悩み、暗闇の中にいた私を、光ある場所へと立ち返らせてくれたことばです。

どんなに苦しい時も、隣にはイエス様がいつもいて下さり、私の重荷を背負い共に歩んで下さる。

「私なんか」が常套句だった私が、「大丈夫。この私で良いのだ」と思えるようになり、気が付けば、いかばかりの困難なことがあったはずなのに、知らぬ間に乗り越えている自分がありました。

娘達は今、希望を胸いっぱい抱き、喜びの内に毎日を過ごしています。その喜びの中でも幾多の葛藤や困難に出会い、どうしようもなく高い壁が前に立ちはだかることもあるでしょう。そんな時でも必ず神様が守って下さっていること、そして神様の愛を知る先生方がそばにいて下さることを覚え、安心して一歩一歩進み、大きくなって欲しいと願います。





コリントの信徒への手紙二 4章17節

このしばらくの軽い苦難は、
私たちの内に働いて、比べものにならないほど
重みのある永遠の栄光を
もたらしてくれます。

初等部6年 石井 咲

私を支える大事な言葉

私が初等部生活の中で一番大事にした聖句。それは「このしばらくの軽い苦難は、私たちの内に働いて、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。」(Ⅱコリント4:17)という箇所だ。

この聖句との出会いは、五年生の二学期であった。プロジェクト活動や宿題等、高学年としての仕事に苦勞し、心に余裕がなかった私は、朝の礼拝前の少しの時間に、この聖句に目をとめた。その時はいい聖句だな、くらいにしか思っていなかったが、時間を重ねていくうちに、この聖句は私の中で大切なものになっていった。プロジェクトのインタビューが進まない時、出された問題が難しかった時、もうだめだ、あきらめよう、そう思った時に、この聖句は私の頭に浮かび、もう少しがんばってみよう、という勇気を与えてくれた。私はこれまで、この聖句にずっと助けられてきた。これから先も、きっとたくさんの困難に私はぶつかるだろう。しかし、その先には、必ず大きな喜びが待っていると、私はそう信じて未来への道を歩んで行きたい。

一人より二人のほうが幸せだ。
共に労苦すれば、
彼らには幸せな報いがある。

コヘレトの言葉 4章 9節



中等部 3年 藤原 櫻子

寄り添える人に

私の中等部での3年間の生活を振り返るとこの聖句がぴったりであると感じています。

チアダンス部に入部し「誰かを応援し、元気づけること」をモットーに活動してきました。日々互いの長所を最大限生かせるように何十回、何百回も練習を重ねていきます。その中で誰もが悔しい思いや経験をし、時には涙も流しました。辛くてチアから離れたと思う時もありましたが、3年間全力で励むことができたのは支えてくれる家族や仲間がいてくれたからです。仲間と共に切磋琢磨することで想像以上の力を出せ、一人では味わえない感動を得ることができました。私は元々、人に頼らず自分の力で解決しようとしてしまうところがあります。ですが互いに支え合うことがいかに大切なことかチアダンスが教えてくれました。また誰かと共に時間を過ごす幸せを見つけられました。

人は一人では生きていけません。一人よりも二人が幸せだということ、助けてもらうのはとても大切なことだということを胸に刻み、同じような立場にある人に寄り添える人になりたいです。

人にしてもらいたいと思うことは何でも、
あなたがたも人にしなさい。

マタイによる福音書7章12節

高等部3年 加藤 真那

人生の軸を決める

この3年間で挑戦して良かったことは、高等部の短期交換留学プログラムに参加したこと。イタリアからの留学生を自宅で受け入れ、イタリアでは私がホームステイさせてもらいました。



昨年4月にこの経験を礼拝で話す機会をいただいて感謝しています。イタリアの友人と関わる中で、彼女には自分の生き方の軸があるのだと感じる場面が多くありました。

まもなく卒業しますが、新しい環境になると、気持ちだけが先行してあらゆることに挑戦したくなったり、すべてのことを完璧にこなしたくなったりすることがあります。選択肢が広がりすぎて、何が重要なのか、優先順位がわからなくなってしまうのだと思います。最終的には、自分の人生で何を大切にするかということに繋がりますが、それを決めるのは容易ではありません。

そこで贈りたい聖句が、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」(マタイ7:12)です。3年間で何度も見聞きした聖句ですが、周囲にも良い影響を与える人になれるよう、学び続けたいと思います。



教育人間科学部 4年 澤田 七奈緒

善を続けること

私の大学生活は、競技サーフィンと学業との両立に追われた日々でした。試合が近づいているのにレポートの提出期限が迫っていたり、授業があるため、思うように練習ができなかったりという生活で、時には「もう目標を達成できないかも」と思うこともありました。そんな時、神様から与えられた「失望せずに善を行きましょう。あきらめずに続ければ、時が来て刈り取ることにになります」という御言葉が心の支えになりました。

この御言葉が与えられてから、私は立ち止まらずに自分にできることをひたすら続けました。その結果、課題をこなし、プロサーファーになるという目標も達成することができました。この経験を通じて、どんなに苦しい時でも、立ち止まらずに善を行うことの大切さを実感しました。大学生の中にはアルバイトやサークル、授業で忙しい人も多いと思いますが、目の前のやるべき事を続けていくことは本当に意味があることだと感じます。努力を続ける先には、必ず神様からの恵みと祝福が待っているはずです。たくさんのことにチャレンジし、後悔のない学生生活を！

失望せずに善を行いましょ
う。
あきらめずに続ければ、
時が来て刈り取ることに
なります。

ガラテヤ人への手紙 6章9節（新改訳2017）

